

山口県防府市国府跡出土の平安時代人骨

松下孝幸*・松下真実**

【キーワード】：山口県、平安時代人骨、周防国府跡、土坑墓、木棺墓、仰臥、保存不良

はじめに

本報告書は、山口県防府市国衙5丁目に所在する国府跡から発掘された人骨のうち1992(平成4)年と1993(平成5)年に実施された第78次発掘調査で出土した4体の人骨についての報告書である。国府遺跡からは1981(昭和56)年におこなわれた第26次発掘調査でも4体の人骨が出土している。



調査区全景 1993年

第26次発掘調査で出土した4体のうち男性骨は1体、女性骨は3体であるが、遺存状態はか

なり悪く、計測ができたのは女性骨1例のみであった。この女性の四肢骨は細く、大腿骨の骨体中央断面示数は95.47で、横径が矢状径よりも大きく、断面形は横広ろの楕円形を呈しているが、骨体上断面示数は79.15で、骨体上部は扁平であった。男性大腿骨は観察したところやや大きい傾向が窺えた(松下・他、1984)。

平安時代人骨の出土例は全国的に少なく、山口県では防府市の玉祖遺跡(松下・他、1983a)と国府跡(松下・他、1984)、萩市見島ジークンボ古墳群(松下・他、1983b、2012d、2013a、松下、1985a、松下真実・他、2014)から出土している。そのほかに、周東町上久宗遺跡(松下、1995b)からも出土しているが、これは火葬骨である。ちなみに長門市上藤中横穴からは奈良時代の火葬骨が検出されている(松下、1999)。

九州では、熊本市の二本木遺跡から古代に属する人骨が多数出土している。具体例を挙げれば、熊本市が調査をおこなった二本木遺跡群第18次調査区(松下、2005)、28次調査区(松下・他、2008)、31次調査区(松下・他、2012a)、32次調査区L地点(松下・他、2009)、35次調査区、40次調査区F地点(松下・他、2010a)、41次調査区(松下・他、2010b)、49次調査区(松下・他、2012b)、50次調査区(松下・他、2011)、97次調査区、104次調査区、105次調査区のほかに、熊本県教育委員会が発掘調査をおこなった二本木遺跡群(市電敷地)(松下真実・他、2012a、2012b)、二本木遺跡群(さつま荘跡)(松下・他、2012c)、二本木遺跡群(春日地区第6次調査)(松下真実・他、2012c)からも平安時代人骨が出土している。そのほかの出土例としては、新屋敷遺跡(松下・他、2013b、松下真実・他、2016)、古町遺跡群5次調査区(松下、2007b)、上代遺跡群第5次調査区、大江遺跡群第63次調査区(松下・他、2016)、同第97次調査区(松下、2007a)、大江(学苑住宅)遺跡(松下、2006)、江津湖遺跡群(松下・他、2022)、桑鶴遺跡(06-Ib区)(松下・他、

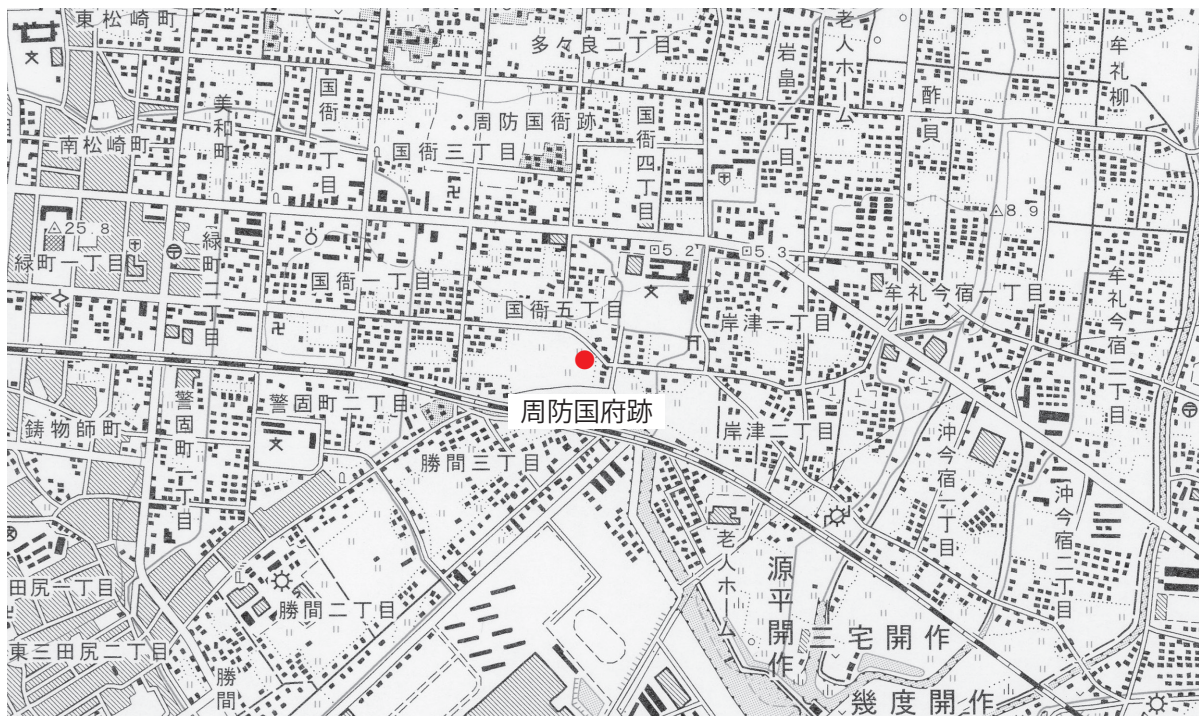
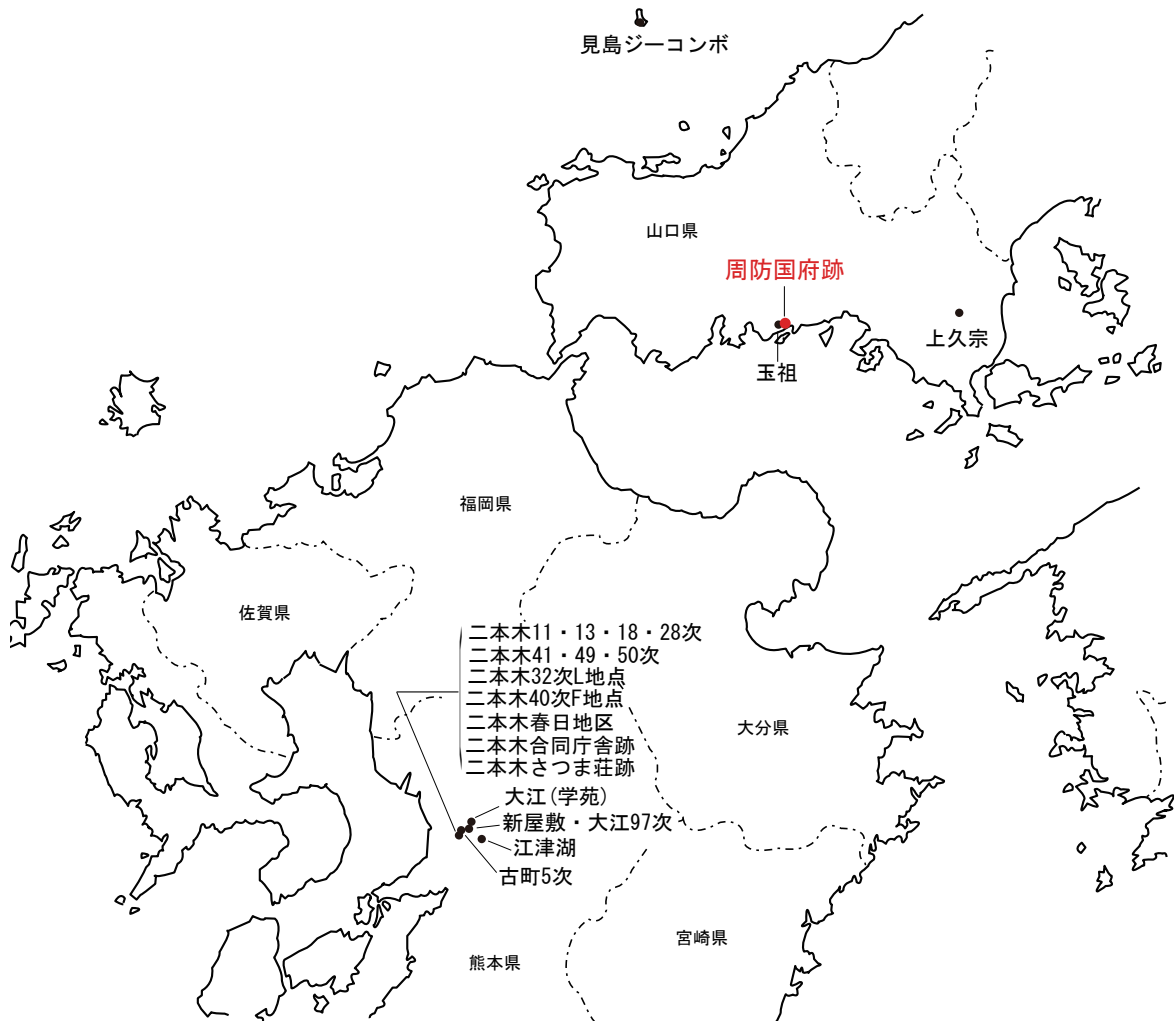


図1. 遺跡の位置 (1/25,000)

(Fig.1 Location of the Suokokufu site, Hofu City, Yamaguchi Prefecture)

2015)からも平安時代人骨が検出されているが、大江(学苑住宅)遺跡、大江遺跡群第63次調査区、江津湖遺跡群、桑鶴遺跡(06-Ib区)から出土した人骨は火葬骨である。

今回、周防国府跡から出土した4体の平安時代の人骨は、写真や実測図からは保存状態が良好であるような印象を受けるが、骨質は脆弱化しており、実測図よりもかなり保存状態は悪い。現場でできる限りの観察をおこない、現状を維持した状態で取り上げることができた骨についてはクリーニングや保存処理をして、人骨の観察などをおこなったので、その結果を報告しておきたい。

資料および所見

人骨は3基の土坑墓(ST5271、ST5272、ST5273)と1基の木棺墓(ST5270)から出土した。出土した人骨は表1に示すとおり、4体とも成人骨で、男性骨が2体、女性骨が1体で、残りの1体(ST5273)は性別を明確にすることができなかった(男性の可能性のある成人骨)。各人骨の性別、年齢や墓坑の形態、所属年代は表2のとおりである。なお、年齢区分を表3に示した。

この4体の人骨は副葬品の考古学的所見より、平安時代に属する人骨であるが、ST5270(男)は11世紀前半に、ST5271(女)は12世紀後半に、ST5272(男)は11世紀頃に、ST5273(性別不明)は12世紀代に属する人骨と推測されている(防府市教育委員会、2013)。

表1 人骨体数 (Table 1. Number of materials)

成人			幼小児	合計
男性	女性	不明		
2	1	1	0	4

表3 年齢区分 (Table 3. Division of age)

年齢区分		年齢
未成人	乳児	1歳未満
	幼児	1歳～5歳 (第一大臼歯萌出直前まで)
	小児	6歳～15歳 (第一大臼歯萌出から第二大臼歯根完成まで)
	成年	16歳～20歳 (蝶後頭軟骨結合癒合まで)
成人	壮年	21歳～39歳 (40歳未満)
	熟年	40歳～59歳 (60歳未満)
	老年	60歳以上

注) 成年という用語については土井ヶ浜遺跡第14次発掘調査報告書(松下、1996)を参照されたい。

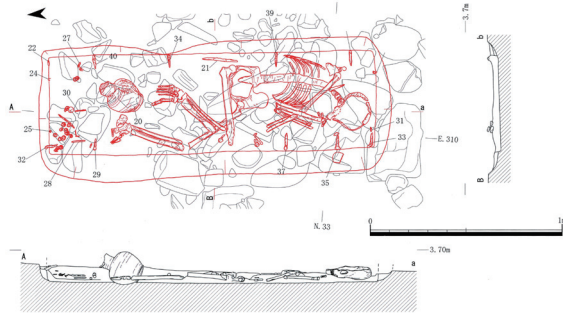
所見

A 埋葬姿勢

ST5270(旧ST-5)人骨(男性・熟年)

埋葬遺構は木棺墓である。埋葬姿勢は仰臥で、頭位は南である。4体のうち、頭位が南なのは本例

のみである。墓坑上面には礫が置かれていた。右側の肘関節は伸展状態であるが、左側は強屈しており、右側上肢を左側の上腕と前腕で挟んでいた。右側膝関節はやや強く曲げ、左側膝関節は緩く曲げて、左側へ倒していた。木棺の長さは1.7m、幅は0.5mである。腰付近には刀子が、足下には灰釉陶器壺と乾元大宝20枚を含む銅銭24枚が副葬されていた。時期は11世紀前半に比定されている。



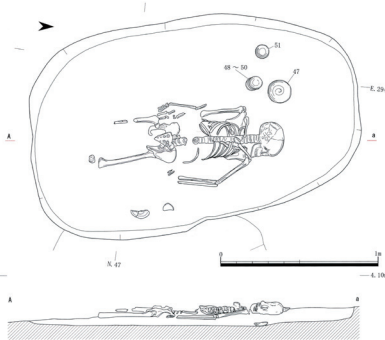
ST5270(旧ST-5)実測図(周防国府跡発掘調査報告3より転載)



ST5270(旧ST-5)検出状況

ST5271(旧ST-1)人骨(女性・熟年)

埋葬遺構は土坑墓。墓坑の長さは2.0m、幅は1.3mで、墓坑はかなり大きい。埋葬姿勢は仰臥で、頭位は北である。左右の肘関節はほぼ伸展状態である。左右とも下腿の骨を欠失しているため、膝関節の様態は不明であるが、大腿骨の位置と様態から両側の膝関節は伸展状態であったと推測される。下腿の骨を除くほぼ全身の骨を検出することができたが、骨質は脆弱で、ほとんどの骨では原形を保った状態で取り上げることはできなかった。頭部の西側に土師器杯1点、皿3点、白磁皿1点が副葬されていた。所属時期は12世紀後半に比定されている。



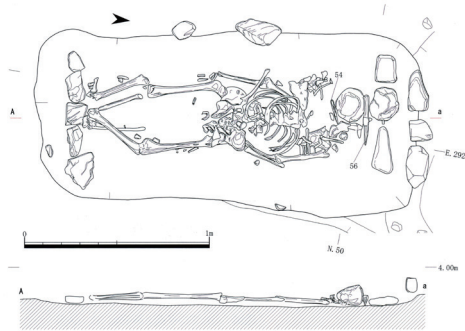
ST5271(旧ST-1)実測図(周防国府跡発掘調査報告3より転載)



ST5271(旧ST-1)検出状況

ST5272(旧ST-3)人骨(男性・熟年)

埋葬遺構は土坑墓。墓坑の長さは2.0m、幅は1.0mで、墓坑の平面形は不整形である。埋葬姿勢は仰臥で、頭位は北である。肘関節は左右ともほぼ伸展状態で、膝関節は左右とも緩く曲げてはいるが、ほぼ伸展状態である。左側腓骨の近位部が若干ずれており、下腿部に多少空間があったことが予想され、腐敗の過程で動いたものと思われる。頭蓋の北側と足下には石列が認められた。頭部には刀子と鋏が副葬されており、また土師器633点を含む682点の遺物が出土している。時期は11世紀頃に比定されている。



ST5272(旧ST-3)実測図(周防国府跡発掘調査報告3より転載)

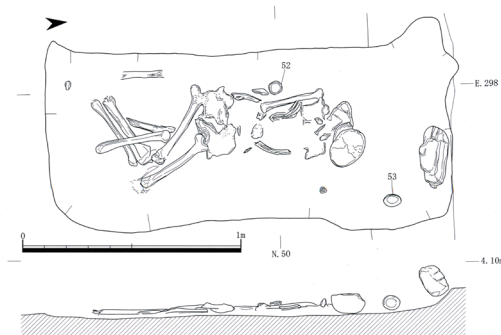


ST5272(旧ST-3)検出状況

ST5273(旧ST-2)人骨(性別・年齢不明)

埋葬遺構は土坑墓。墓坑の長さは1.8m、幅は0.8～0.9mで、埋葬姿勢は仰臥で、頭位はほぼ北である。前腕の骨が左右とも遺存していなかったため、肘関節の様態は両側とも不明である。右側の膝関節は屈曲状態である。左側脛骨は左側大腿骨の遠位端と大きく離れて、右側脛骨の上に乗った状態で検出された。すなわち左側膝関節は大腿骨と脛骨とが関節しておらず、脛骨近位部は膝関節の位置から大きく外れている。膝関節部に多少空間があったとしても、これだけ大きく脛骨上端が大腿骨遠位端から外れるのは考えられない。おそらく埋葬後、埋土が硬くならない期間中に左側膝関節部分と下腿の骨(脛骨と腓骨)が攪乱されたと思われる。すなわち、攪乱を受けるまでは膝関節は両側とも屈曲した状態で、左側へ倒された状態で埋葬されていた。副葬品としては、右側肘付近から青白磁合子が、頭部のやや離れた位置から土師器皿が検出されている。その他、埋土からは土師器1204点を含む1288点の遺物が出土している。

人骨の残存状態は悪く、残っていたのは頭蓋、右側上腕骨、寛骨、左右の大腿骨と脛骨および腓骨である。頭蓋壁は厚く、大腿骨頭は大きい。時期は12世紀頃に比定されている。



ST5273(旧ST-2)実測図(周防国府跡発掘調査報告3より転載)



ST5273(旧ST-2)検出状況

B 人骨の形質

ST5270(旧ST-5)人骨(男性・熟年)

1. 頭蓋

左側半分の頭蓋を取り上げることができたが、頭蓋内部に土が充填しているため、かろうじて形状を保っている状態である。外後頭隆起の様態は不明である。乳様突起はやや大きく、眉上弓はやや隆

起している。

縫合は冠状縫合の左側半分と矢状縫合の観察ができた。内板は観察できない。外板は、冠状縫合ではほぼ癒合しており、矢状縫合ではまだ開離しているが、部分的に癒合が進行している。遺存状態が悪いので、脳頭蓋の計測はできない。頭蓋が潰れているので、長さが長いようにみえるが、この点を考慮しても頭蓋の径はそれほど小さいものではないようである。

顔面の特徴も不明である。下顎骨の遺存状態は比較的良好である。下顎体の高径は低く、全体の径はあまり大きいものではない。下顎枝の高径も低く、幅はやや狭い。下顎切痕は浅い。下顎角は大きく、下顎枝は後ろへ傾斜している。

2. 歯

上下両顎には歯が釘植していた。残存歯と歯槽の状態を歯式で示すと、次のとおりである。

// // // // // // // //	// // 3 // // // // //	
// // // // // // // //	// // 3 4 ⑤ ⑥ 7 ⑧	[●:歯槽閉鎖 /:不明(破損)、番号は歯種]

[1:中切歯、2:側切歯、3:犬歯、4:第一小白歯、5:第二小白歯、6:第一大白歯、7:第二大白歯、8:第三大白歯]

下顎の第二大白歯の咬耗度は Broca の 1 度（咬耗がエナメル質のみ）で、咬耗は弱いですが、その他の歯の咬耗程度は不明である。

3. 四肢骨

(1) 上肢骨

上腕骨、橈骨、尺骨を取り上げることができた。

①上腕骨

両側を取り上げることができたが、遺存状態が悪く、計測はほとんどできない。観察によれば、骨体は細かったようである。

②橈骨

左側骨体を取り上げることができた。骨体は細いが、骨間縁の発達良好である。

③尺骨

両側の骨体を取り上げることができた。骨体は細いが、骨間縁の発達良好である。

(2) 下肢骨

大腿骨、脛骨および腓骨を取り上げることができた。

①大腿骨

両側を取り上げることができたが、保存状態はかなり悪く、骨体は潰れており、計測はできない。骨体の径はあまり小さくはないようで、粗線は幅広く明瞭である。

②脛骨

両側の骨体を取り上げることができたが、保存状態は著しく悪く、計測も観察もできないが、径はそれほど小さくはなかったようである。

③腓骨

両側の骨体を取り上げることができたが、大きさなどの特徴は不明である。

4. 性別・年齢

乳様突起がやや大きく、眉上弓がやや隆起していることから、性別を男性と推定した。観察できた冠状縫合の左側部の外板はほぼ癒合しており、矢状縫合の外板はまだ開離しているが、部分的に癒合が進行していることから、年齢は熟年と思われる。

ST5271 (旧ST-1) 人骨 (女性・熟年)

取り上げることができたのは頭蓋、左右の肩甲骨、右側の上腕骨、左右の寛骨、左側の膝蓋骨、両側の大腿骨である。

1. 頭蓋

左側半分が残存していたが、頭蓋内に充填している土によって形状が保たれている状態なので、土と一緒に取り上げた。土を外すと原形を保てないので、取り上げた状態で観察などをおこなった。

頭蓋の径は大きく、外後頭隆起部の発達も比較的良好である。乳様突起はあまり大きくない。眉上弓の隆起はみられない。鼻根部は扁平であったようである。三主縫合の内板は観察できないが、外板は矢状縫合と冠状縫合の左側部、ラムダ縫合の左側部の観察ができた。ラムダ縫合の外板は開離しているが、冠状縫合と矢状縫合の外板は大部分癒合、閉鎖している。

下顎骨の遺存状態は比較的良好である。下顎骨の径も大きく、高径も高い。咬筋粗面の発達は良好である。下顎切痕は浅く、下顎枝の幅は広い。

2. 歯

上下両顎には歯が釘植していた。残存歯と歯槽の状態を歯式で示すと、次のとおりである。

8 7 6 5 4 / / /	/ / / / 5 6 7 8	
8 7 6 5 4 / / /	/ / / 4 5 6 7 8	〔○：歯槽開存 /：不明（破損）、番号は歯種〕

〔1：中切歯、2：側切歯、3：犬歯、4：第一小白歯、5：第二小白歯、6：第一大臼歯、7：第二大臼歯、8：第三大臼歯〕

咬耗度は Broca の 2 度（咬耗が部分的に象牙質まで及ぶ）である。

3. 四肢骨

(1) 上肢骨

① 上腕骨

右側を取り上げることができた。上腕骨頭はやや大きく、骨体は扁平である。三角筋粗面の様態は不明ある。また、滑車上孔が認められる。

(2) 下肢骨

寛骨と大腿骨を取り上げることができた。

① 寛骨

左右とも坐骨と腸骨の観察ができた。寛骨の径はやや大きい。大坐骨切痕の角度は大きく、耳状面前溝は深く幅が広い。

② 大腿骨

保存状態が良好だった右側の近位部を取り上げることができた。骨頭はやや大きい、骨体近位部は大きくない。粗線の様態は不明である。なお、現場で左側大腿骨の最大長を計測することができた。

その最大長は 385mm で、長さは短い。

4. 推定身長値

現場で左側大腿骨の最大長を計測することができた。最大長は 385mm で、この値から算出した推定身長値は 147.73cm (Pearson 式)、147.55cm (藤井式) で、低身長である。

5. 性別・年齢

寛骨の大坐骨切痕の角度は大きく、耳状面前溝も深くて幅が広いことから、性別を女性と推定した。年齢は、ラムダ縫合の外板は開離しているが、冠状縫合と矢状縫合の外板は大部分が癒合していることから、熟年と思われる。

ST5272 (旧ST-3) 人骨 (男性・熟年)

保存状態が悪く、取り上げることができたのは、頭蓋、右側肩甲骨、左右の上腕骨、左右の尺骨、右側寛骨、左右の大腿骨と右側脛骨および左側腓骨である。

1. 頭蓋

左右の頭頂骨、後頭骨を取り上げることができた。骨壁は厚い。外後頭隆起の発達は良好で、頭蓋の径は大きい。縫合の内板の観察はできないが、矢状縫合とラムダ縫合の外板の観察ができた。矢状縫合の外板は癒合しており、ラムダ縫合の外板にも癒合が進行している。

下顎骨の遺存状態も悪く、大きさを含めてその特徴は不明である。

2. 四肢骨

(1) 上肢骨

①上腕骨

左右の骨体などが残存していたが、遺存状態が悪く、その特徴は不明である。

②尺骨

両側の骨体が残存していたが、その特徴は不明である。

(2) 下肢骨

右側寛骨、両側の大腿骨、右側脛骨、左側腓骨を取り上げることができたが、脛骨と腓骨は骨体の一部に過ぎない。

①寛骨

右側の大坐骨切痕部が残存していた。その角度は鋭角で、狭い。

②大腿骨

左右の骨体を取り上げることができたが、保存状態が悪く、大きさは不明である。粗線は明瞭でやや隆起している。なお、現場で左側大腿骨の最大長を計測することができた。最大長は 430mm で、大腿骨は長い。

3. 推定身長値

現場で左側大腿骨最大長を計測することができた。推定最大長は 430mm で、この値から算出した身長値は 162.15cm (Pearson 式)、161.06cm (藤井式) で、高身長である。

- ST5273) は土坑墓と推測されている。
2. 埋葬姿勢は4体とも仰臥で、頭位は南頭位が1体 (ST5270・男) で、残りの3体は北頭位であった。肘関節の様態については、両側の肘関節を伸展していたものが2例で、1例は右側が伸展、左側が強屈、1例は上肢骨が遺存しておらず不明であった。また、膝関節の様態については、膝関節を伸展していたものが2例、屈曲していたものが2例であった。
 3. 出土した4体はすべて成人骨で、男性骨は2体、女性骨は1体、残りの1体は性別不明 (男性の可能性のある成人) である。
 4. 4体の人骨は副葬品の考古学的所見より、平安時代に属する人骨であるが、ST5270 (木棺墓、男) は11世紀前半に、ST5271 (女) は12世紀後半に、ST5272 (男) は11世紀頃に、ST5273 (性別不明) は12世紀代に属する人骨と推測されている。
 5. 頭蓋の保存状態は著しく悪く、計測も観察もできなかったため、頭型や顔面の特徴は不明である。
 6. 四肢骨の遺存状態も悪く、四肢骨の計測はできなかったが、現場で大腿骨最大長を計測することが可能な個体が2体 (男1、女1) 存在する。男性 (ST5272) は162.15cm (Pearson式) で高身長であった。女性 (ST5271) は147.73cm (Pearson式) で、低身長である。
 7. 周防国府跡から、1981年および1992年と1993年に出土した合計8体の人骨を観察した限りでは、女性の四肢骨は細く、小柄で、男性は高身長の傾向が窺えた。熊本市の二本木遺跡 (さつま荘) と新屋敷遺跡から出土した男性も高身長であったことから、多種の副葬品を持ち厚葬された男性被葬者は体格がよかった可能性が高い。

《参考文献》

1. 防府市教育委員会、2013：周防国府跡発掘調査報告3 一船所・浜宮北方地区の調査一
2. 松下真実・他、2012a：熊本市二本木遺跡群 (市電敷地) 出土の古代・中世人骨。二本木遺跡群6 (春日地区第9・10次調査) (熊本県文化財調査報告第274集)：411-423.
3. 松下真実・他、2012b：熊本市二本木遺跡群 (市電敷地) 出土の古代人骨。二本木遺跡群6 (春日地区第9・10次調査) (熊本県文化財調査報告第274集)：398-410.
4. 松下真実・他、2012c：二本木遺跡群 (春日地区第6次調査) 出土の古代人骨。二本木遺跡群 (春日地区) 5 第6次・第14次調査 (熊本県文化財調査報告第271集)：140-152.
5. 松下真実・他、2014：山口県萩市ジーコンボ古墳群出土の平安時代人骨。山口考古第34号 131-150.
6. 松下真実・他、2016：熊本市新屋敷遺跡出土の古代・近世人骨。新屋敷遺跡6 (熊本県文化財調査報告第317集)：168-184.
7. 松下孝幸・他、1983a：山口県防府市玉祖遺跡出土の平安・中世人骨。玉祖遺跡・西小路遺跡 (山口県埋蔵文化財調査報告70)：147-148.
8. 松下孝幸・他、1983b：山口県萩市見島ジーコンボ古墳群出土の平安時代人骨。見島ジーコンボ古墳群 (山口県埋蔵文化財調査報告73)：32-36.
9. 松下孝幸・他、1984：防府市周防国府跡出土の平安時代人骨。防府市文化財調査年報VI：535-544.
10. 松下孝幸、1985a：山口県見島ジーコンボ古墳群出土の人骨一山口大学埋蔵文化財資料館所蔵の資料一。山口大学構内遺跡調査研究年報IV：83-90.
11. 松下孝幸、1995b：山口県周東町上久宗遺跡出土の火葬骨。山口県埋蔵文化財調査報告第174集：25-30.
12. 松下孝幸、1996：土井ヶ浜遺跡第14次発掘調査出土の中世・弥生時代人骨。土井ヶ浜遺跡第14次発掘調査報

- 告書(山口県豊北町埋蔵文化財調査報告書第12集):24-50.
13. 松下孝幸、1999:長門市上藤中横穴出土の奈良時代火葬骨。上藤中横穴墓群(長門市埋蔵文化財調査報告書第3集):15-18.
 14. 松下孝幸、2005:熊本市二本木遺跡群第18次調査出土の古代・近世人骨。二本木遺跡群Ⅰ-第18次調査区発掘調査報告書一:41-46.
 15. 松下孝幸、2006:熊本市大江(学苑住宅)遺跡群出土の平安時代火葬骨。大江遺跡群Ⅱ(熊本県文化財調査報告書第231集):80-84.
 16. 松下孝幸、2007a:熊本市大江遺跡群第97次調査区出土の平安時代人骨。大江遺跡群Ⅵ(第97次・第106次調査区発掘調査報告書):114-117.
 17. 松下孝幸、2007b:熊本市古町遺跡第5次調査区出土の平安時代人骨。熊本市埋蔵文化財調査年報第9号:148-152.
 18. 松下孝幸・他、2008:熊本市二本木遺跡群第28次調査区出土の古代・中世以降人骨。二本木遺跡群Ⅴ〔二本木遺跡群第28次調査区(E-I・K・L・P地点)発掘調査報告書〕〔熊本駅西土地区画整理事業にともなう発掘調査報告(2)〕:178-183.
 19. 松下孝幸・他、2009:熊本市二本木遺跡群第32次調査区L地点出土の古代人骨。二本木遺跡群Ⅷ〔二本木遺跡群第28次調査区(A-D・J・M-O・Q・T地点)、第32次調査区(A・C~F・H-J・L・N・P・Q・T地点)発掘調査報告書〕〔熊本駅西土地区画整理事業にともなう発掘調査報告(4)〕:185-188.
 20. 松下孝幸・他、2010a:熊本市二本木遺跡群第40次調査区F地点出土の古代・中世人骨。二本木遺跡群ⅩⅠ(熊本駅西土地区画整理事業にともなう発掘調査報告(5)):197-201.
 21. 松下孝幸・他、2010b:熊本市二本木遺跡群第41次調査区出土の古代人骨。二本木遺跡群ⅩⅡ-二本木遺跡群第41次調査区発掘調査報告書一:127-135.
 22. 松下孝幸・他、2011:熊本市二本木遺跡群第50次調査区出土の古代人骨。二本木遺跡群ⅩⅥ-二本木遺跡群第50次調査区発掘調査報告書一(熊本市の文化財第10集):67-75.
 23. 松下孝幸・他、2012a:熊本市二本木遺跡群第31次調査区出土の人骨。二本木遺跡群17(熊本市の文化財第17集):158-162.
 24. 松下孝幸・他、2012b:熊本市二本木遺跡群第49次調査区出土の古代・近世人骨。二本木遺跡群19-二本木遺跡群第49次調査区発掘調査報告書一(熊本市の文化財第19集):77-84.
 25. 松下孝幸・他、2012c:熊本市二本木遺跡群(さつま荘跡)出土の古代・中世人骨。二本木遺跡群6(春日地区第9・10次調査)(熊本県文化財調査報告書第274集):424-435.
 26. 松下孝幸・他、2012d:山口県萩市ジーコンボ古墳群出土の人骨。見島ジーコンボ古墳群第151号墳出土資料調査報告(館蔵資料調査研究報告書2):47-52.
 27. 松下孝幸・他、2013a:山口県萩市見島ジーコンボ古墳群第155号墳出土の人骨。三島ジーコンボ古墳群第152・153・155・156号墳出土資料調査報告(館蔵資料調査研究報告書3):55-58.
 28. 松下孝幸・他、2013b:熊本市新屋敷遺跡出土の古代人骨。新屋敷2(熊本県文化財調査報告書第286集):140-154.
 29. 松下孝幸・他、2015:熊本市桑鶴遺跡群出土の平安時代火葬骨。桑鶴遺跡群・五丁中原遺跡(熊本県文化財調査報告書第308集):217-222.
 30. 松下孝幸・他、2016:熊本市大江63次調査区出土の平安時代火葬骨。大江遺跡群12(熊本市の文化財第60集):71-81.
 31. 松下孝幸・他、2022:熊本市江津湖遺跡群出土の平安時代火葬骨。土井ヶ浜遺跡・人類学ミュージアム研究紀要第17号:55-61.

* Takayuki MATSUSHITA、土井ヶ浜遺跡・人類学ミュージアム

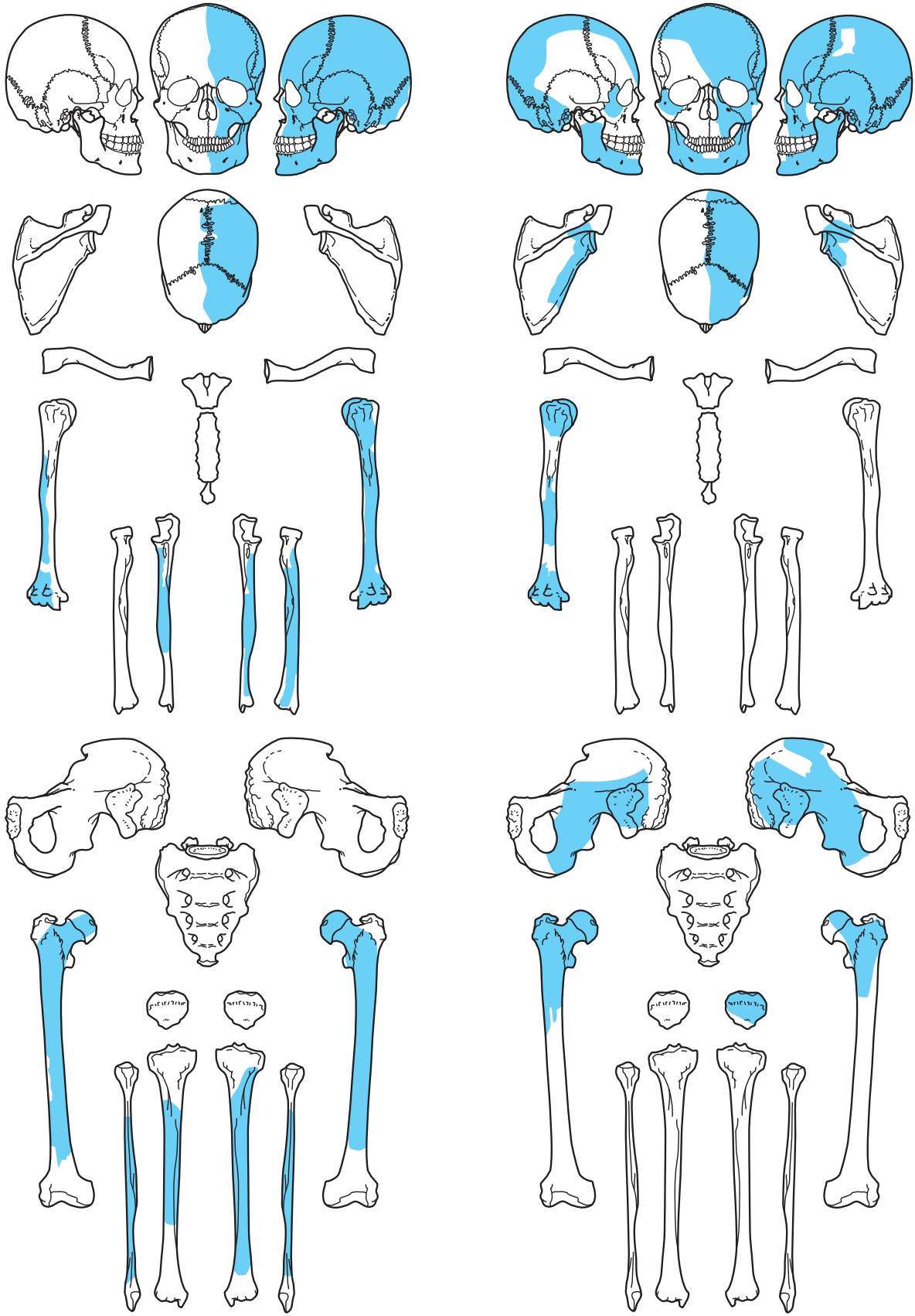
** Masami MATSUSHITA、特定非営利活動法人人類学的研究機構

表2 出土人骨一覧 (Table 2. List of skeletons)

人骨番号	性別	年齢	埋葬施設	埋葬姿勢	頭位	肘関節	膝関節	身長値	副葬品	時期	調査年
ST5270 (HST-5)	男	熟年	木棺墓	仰臥	南	右：伸展 左：屈曲	屈曲 下肢を左へ倒す	-	刀子1点、灰釉陶器壺1点 銅錢24枚	11世紀前半	1993年
ST5271 (HST-1)	女	熟年	土坑墓	仰臥	北	伸展	伸展	(147.73cm)	土師器杯1点、土師器皿3点 白磁皿1点	12世紀後半	1992年
ST5272 (HST-3)	男	熟年	土坑墓	仰臥	北	伸展	伸展	(162.15cm)	刀子1点、鉄1点	11世紀	1992年
ST5273 (HST-2)	不明	不明	土坑墓	仰臥	北	不明	屈曲 下肢を左へ倒す	-	土師器皿1点、青白磁合子1点	12世紀	1992年

表4 推定身長値 (男性, cm) (Table 4. Comparison of estimated male statures)

	周防国府	二本木	新屋敷
	78次調査	(さつま荘)	(2009年出土)
	古代人	古代人	古代人
	山口県	熊本県	熊本県
	防府市	熊本市	熊本市
	(松下・他)	(松下・他)	(松下・他)
	ST5272	S005	ST-01
Pearson式	上腕骨	-	-
	橈骨	-	-
	大腿骨	164.97	165.34
	脛骨	-	-
藤井式	上腕骨	-	-
	橈骨	-	-
	大腿骨	161.06	165.31
	脛骨	-	-

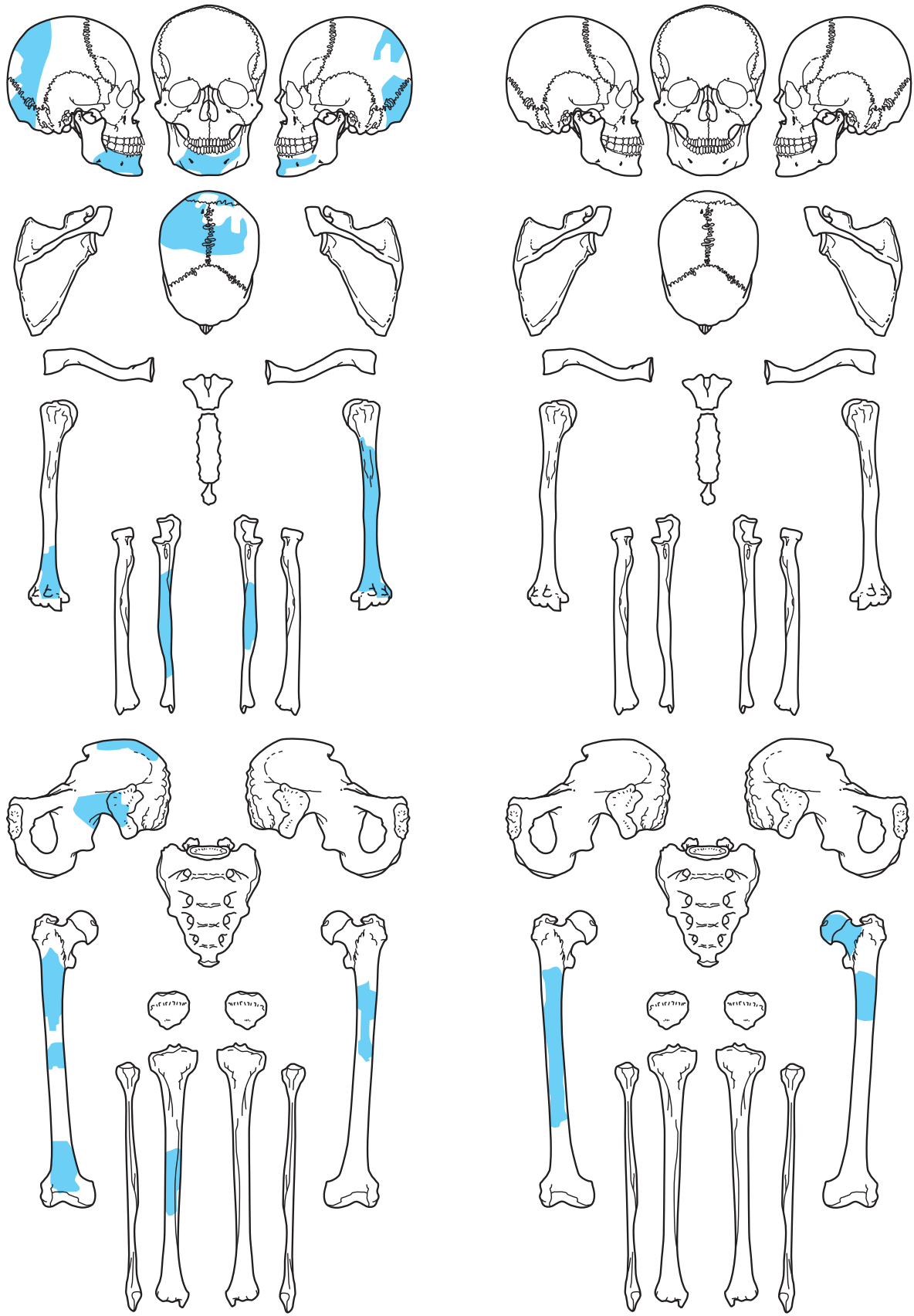


ST5270(旧 ST-5) (男性・熟年)

ST5271(旧 ST-1) (女性・熟年)

図 2-1 人骨の残存図 (アミかけ部分)

(Fig.2 -1 Regions of preservation of the skeletons. Shaded areas are preserved.)



ST5272(旧 ST-3) (男性・熟年)

ST5273(旧 ST-2) (性別・年齢不明)

図 2-2 人骨の残存図 (アミかけ部分)

(Fig.2-2 Regions of preservation of the skeletons. Shaded areas are preserved.)



頭蓋 (The skull)



上肢骨 (Bones of the upper limb)



下肢骨 (Bones of the lower limb)

周防国府跡 ST5270(男性・熟年)

(The skeleton ST5270 from the Suokokufu site, mature male)



頭蓋 (The skull)



寛骨 (The coxae)



大腿骨 (The Femur)

周防国府跡 ST5271(女性・熟年)

(The skeleton ST5271 from the Suokokufu site, mature female)



頭蓋 (The skull)



上肢骨 (Bones of the upper limb)



下肢骨 (Bones of the lower limb)

周防国府跡 ST5272(男性・熟年)

(The skeleton ST5272 from the Suokokufu site, mature male)



大腿骨 (The Femur)

周防国府跡 ST5273(性別・年齢不明)

(The skeleton ST5273 from the Suokokufu site, sex and age are unknown)